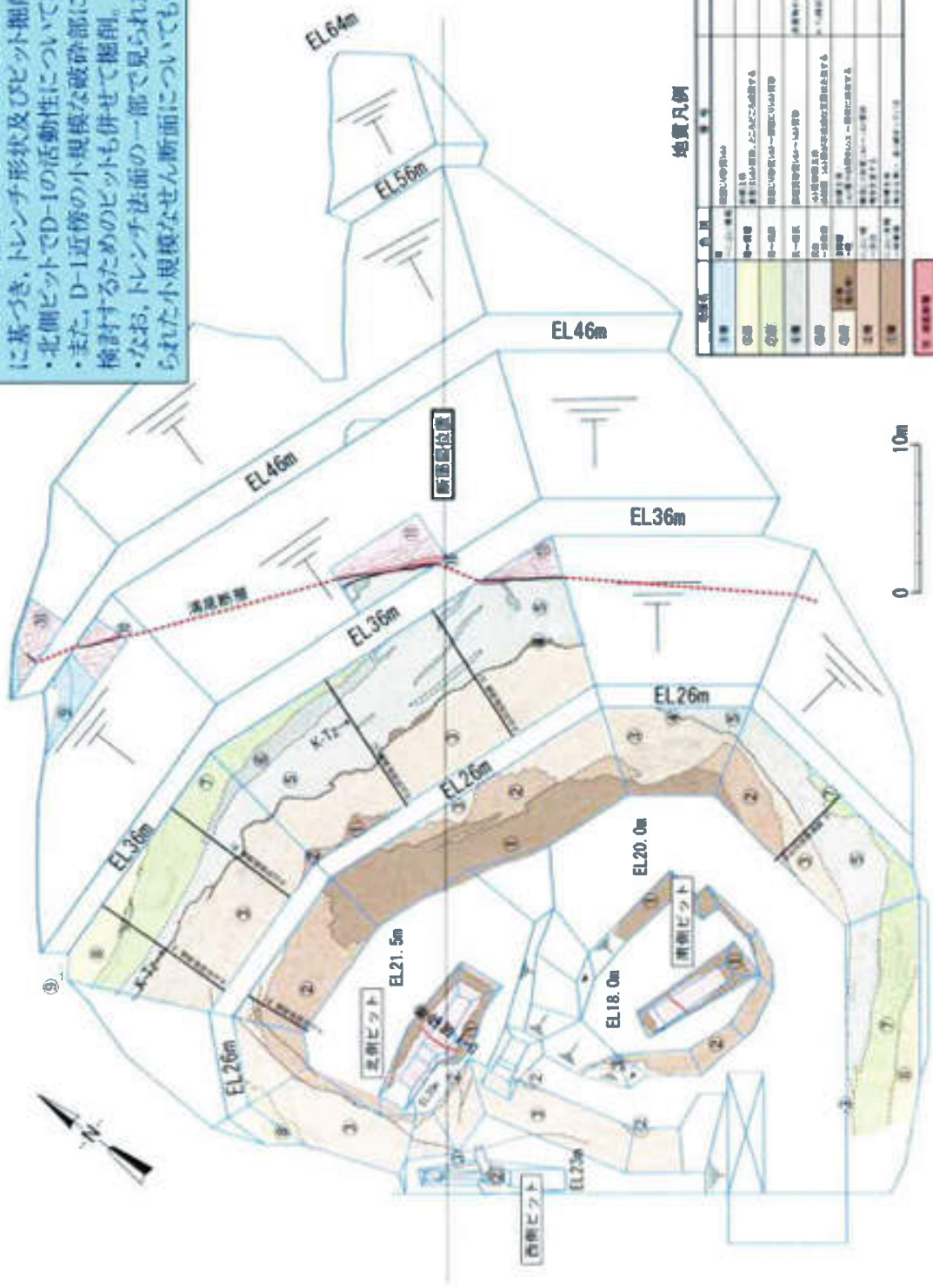


# ④地点

## D-1トレンチ平面図(スケッチ)

トレンチ調査にあたって実施したボーリング調査結果に基づき、トレンチ形状及びピット掘削位置を決定。  
 ・北側ピットでD-1の活動性について検討。  
 ・また、D-1近傍の小規模な破砕部についても活動性を検討するためのピットも併せて掘削。  
 ・なお、トレンチ法面の一部で見られた第四紀層中に見られた小規模なせん断面についても併せて調査した。

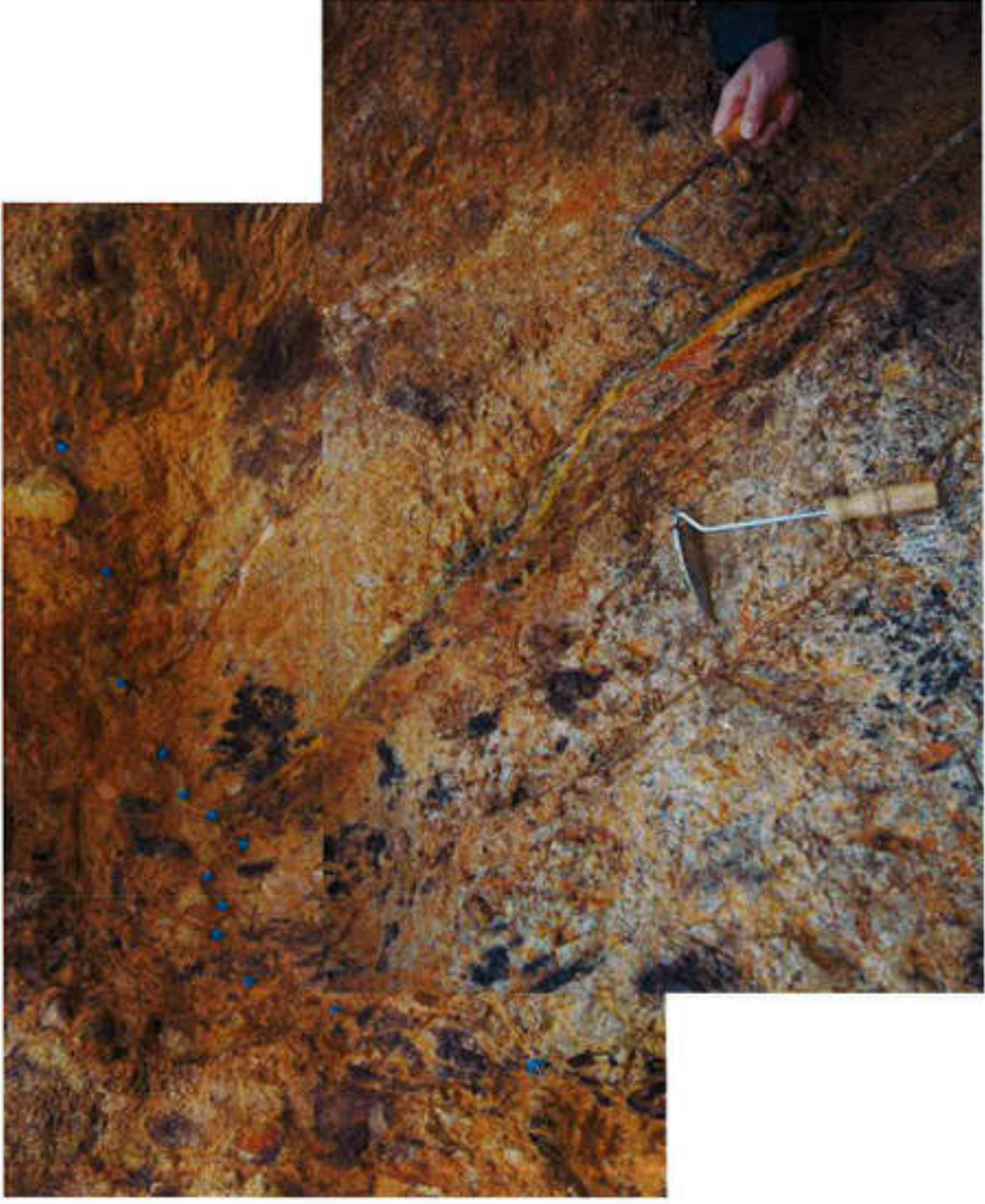


地質凡例

| 凡例                   | 名称    | 説明    |
|----------------------|-------|-------|
| (Color: Light Blue)  | 埋立土   | 埋立土   |
| (Color: Yellow)      | 砂     | 砂     |
| (Color: Green)       | 砂質土   | 砂質土   |
| (Color: Light Green) | シルト質土 | シルト質土 |
| (Color: Brown)       | 粘土質土  | 粘土質土  |
| (Color: Dark Brown)  | 硬質土   | 硬質土   |
| (Color: Red)         | 断層    | 断層    |
| (Color: Pink)        | 調査位置  | 調査位置  |

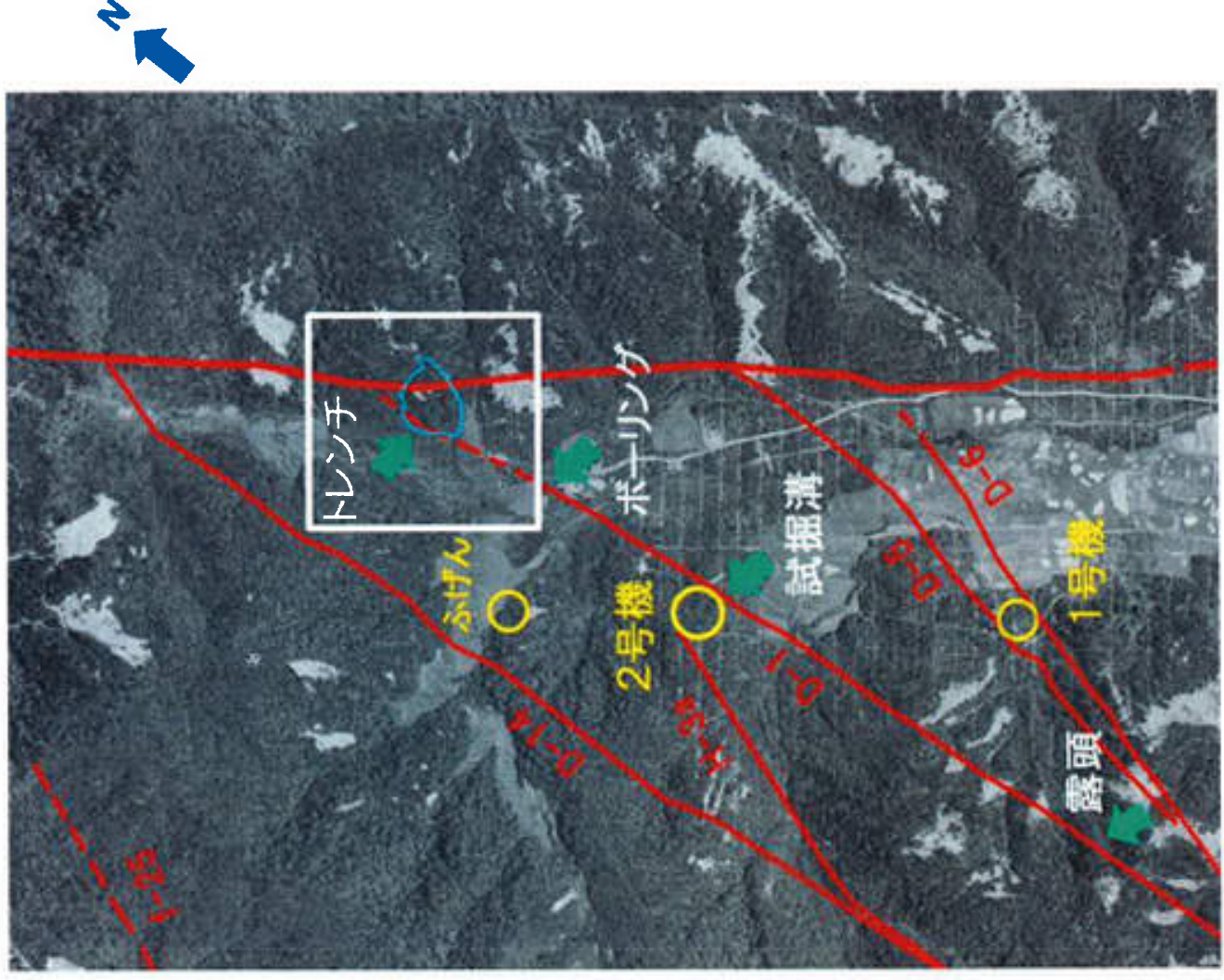






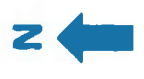
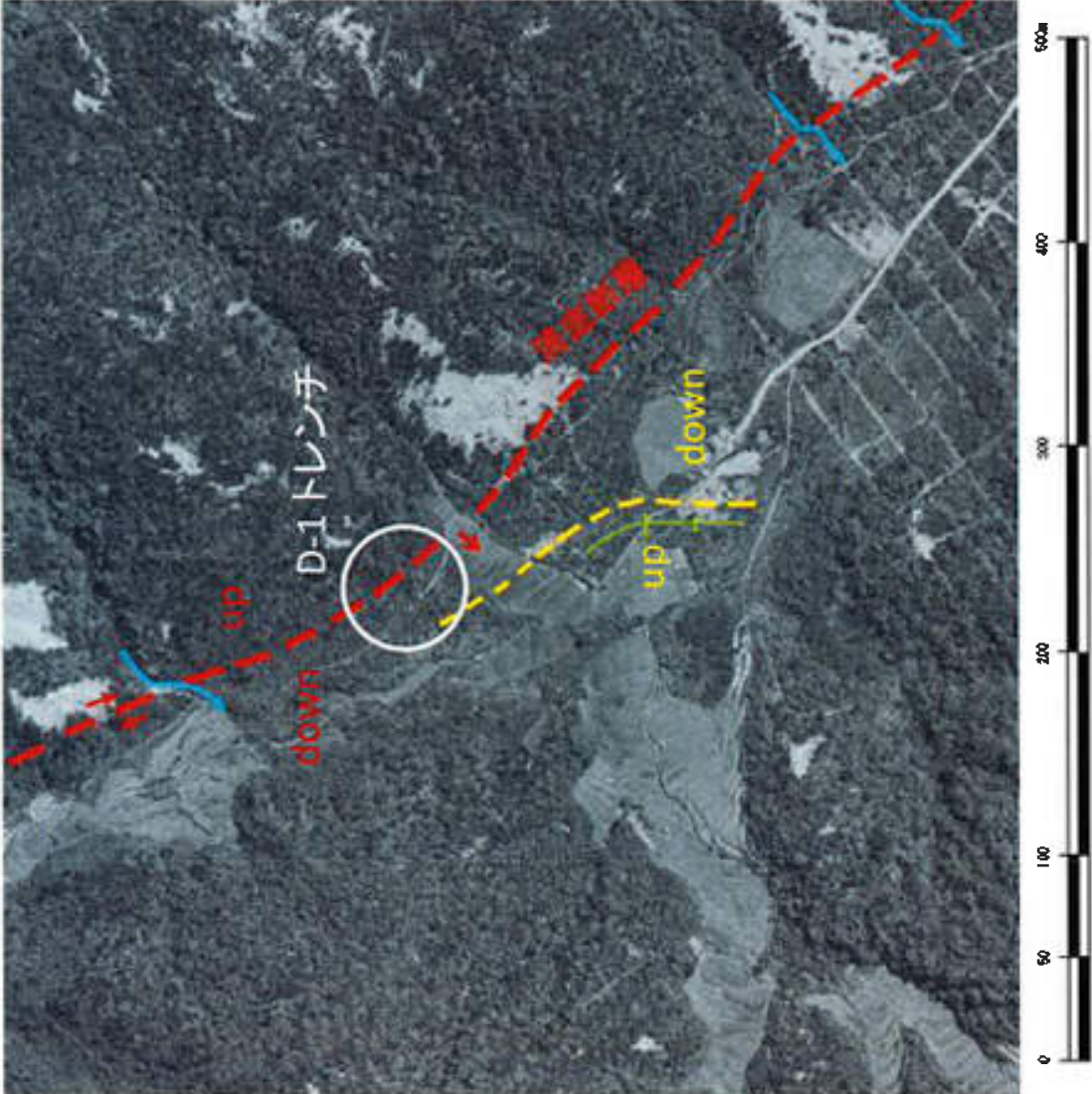
破碎帯に顕著な白色の断層粘土は薄い（いかにも古そう）

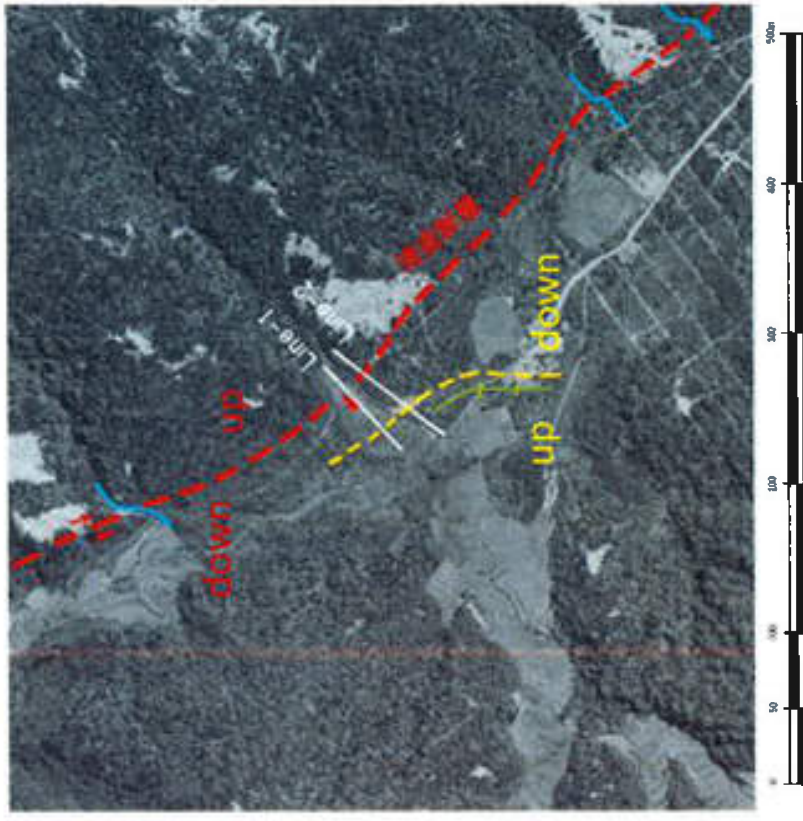
④地点  
D-1トレンチ



③以東のトレース  
の位置は推定

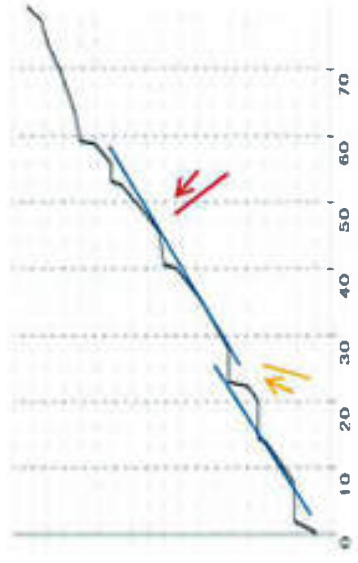






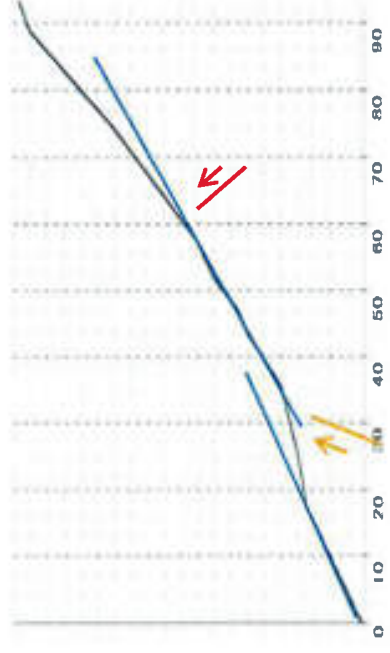
34  
33  
32  
31  
30  
29  
28  
27  
26  
25  
24  
23  
22  
21  
20  
19  
18  
17  
16  
15

Line-1



36  
34  
33  
32  
31  
30  
29  
28  
27  
26  
25  
24  
23  
22  
21  
20  
19  
18  
17  
16  
15

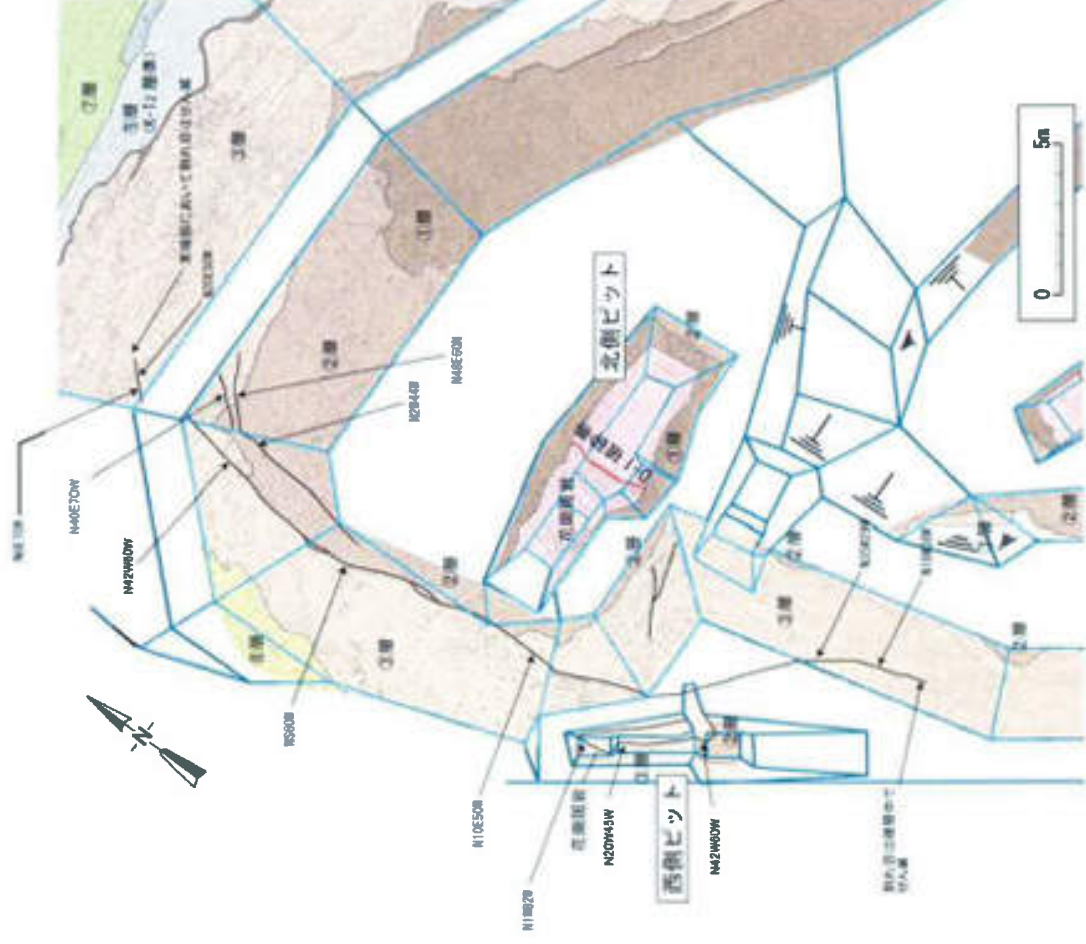
Line-2



鉛直誇張率:2.5

1963年の航空写真を用いて旧地形を写真測量した

## D-1トレンチ(西側ピット周辺平面図)

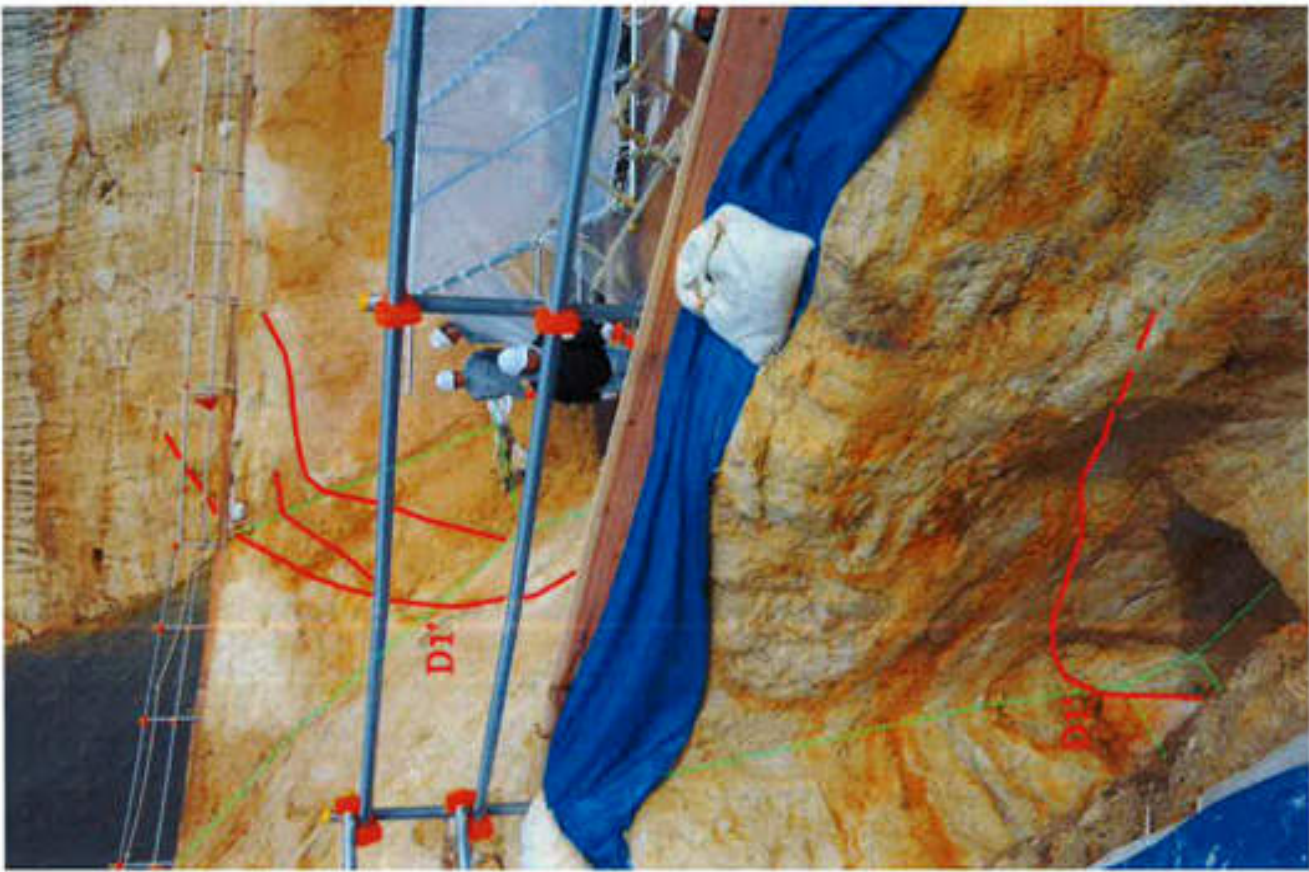


注目される西傾斜・  
西上がりの逆断層

地形判読から推定  
したものと同傾向



# 明瞭な断層

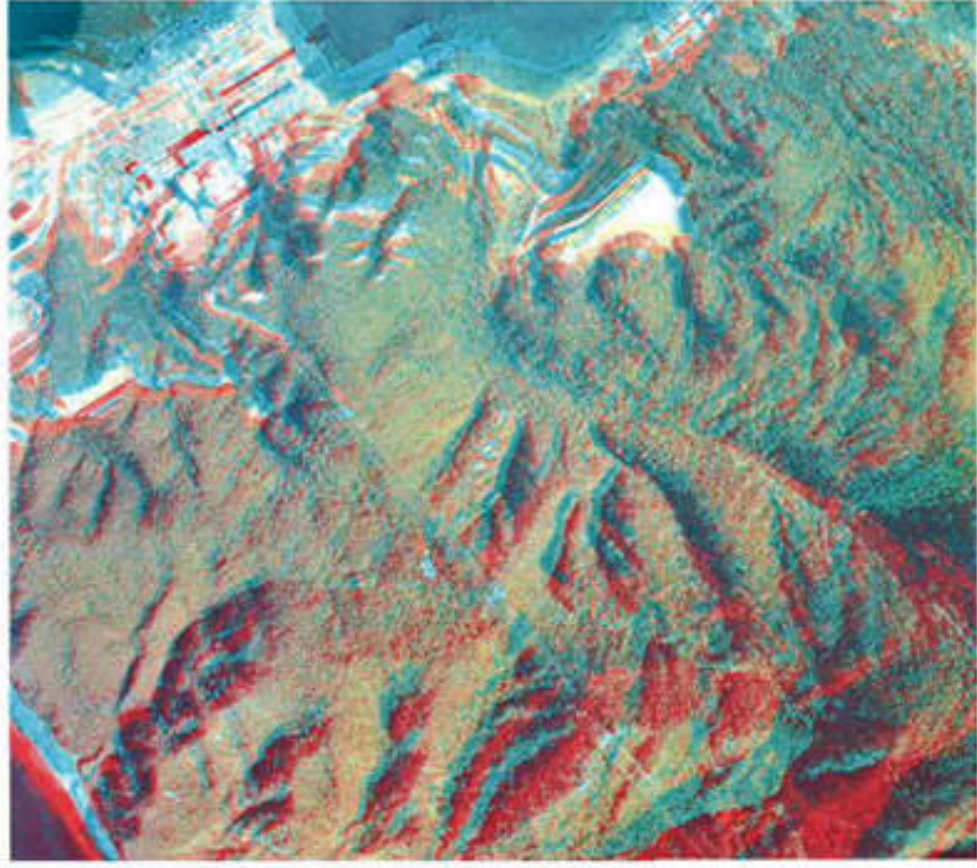




# 横ずれ断層







アナグリフ画像

## 西方山地内にも変動地形学的な推定活断層



## 調査結果

- D-14, H-3aは破碎帯が厚く、断層粘土は著しく軟弱である。
- D-1は、2号機付近の破碎帯のうち、相対的に新しい。
- D-1沿いに「断層運動により変位した可能性のある地形」がある。
- 西ピットでこれと対応する可能性のある西側隆起の断層(D-1')が露出した。走向はほぼ南北、西傾斜で、D-1の可能性が高い。横ずれを伴うことから、浦底断層との関連が深いと考えられる。
- 北ピットの破碎帯は、2号機直下の破碎帯と異なり、顕著な白色粘土を伴わない。固結度も高く、D-1の典型的特徴を示さない。
- 西ピットの断層(D-1')は、K-Tz火山灰よりやや古い(10数万年前程度の)地層を切るため、活断層と見なせる。上部でずれがせん滅している可能性もあり、詳細な活動時期は不明。上述の変位地形と対応するよりも新しい可能性もある。
- D-5, D-6, f-25については調査未了。

# 判断

- D-14, H-3aについては、保安院の意見聴取会の見解のとおり、  
①浦底断層の直近に位置し関連が否定できないこと、②軟弱な断層粘土が存在することから、活断層の可能性を否定できない。
- 浦底断層近傍に、ほぼD-1方向へ延びる活断層D-1‘が存在することは確実。D-1との厳密な連続性は不明だが、総合的判断として、D1は活断層である可能性が高い。
- D-1の活動範囲を特定して、上記の判断を補強することは一般論として重要である。
- 建設済みの敷地内において、これ以上明確な証拠を確認することは容易でない。至近に活発な活断層が存在するため、安全側の判断が重要である。